漂流連歌会

俳句を愉しむにくの会（「玉翠俳句王～にくの会・誌上句会」欄参照）のメンバーのうち、連歌の魅力に目覚めた者たちが平成２５年秋に旗揚げした「漂流連歌会」。この1年の間に二度開催され、いずれも歌仙(36句)を巻きましたが、回を追うにつれて自由度が増してきています。第7回では、英語が登場したり、俳号を句ごとに変えてみたりと自在の境地（やりたい放題ともいう）に達しています。

「漂流連歌会」では、独自の「膝送り・廻り宗匠+衆議判」システムに則り、参加者（連衆）の共同作業で会を運営しています。このシステムでは、連衆が順番に出句していきます（膝送り）が，出句の番になった人が宗匠役となり（廻り宗匠）、自分一人で作句するもよし、他の連衆のお知恵を拝借して作句するもよしとして、他の連衆もこれに対し自由にコメントしたり代案を出したりしながら（衆議判），進めていきます。自分の番が終わると、１時間くらいは、他の連衆の作句の苦労を肴にお酒でも呑んで寛ぎながら、あれこれツッコミを入れたりしてノンビリ楽しむことができます。

座の文芸，即興の文芸といわれる連歌の面白さは，連衆によるコラボレーションの場である連歌会を体験して初めて実感できるものです。連歌は初めてでどうしたらいいのか分からないという方でも気軽に参加していただけます。(文責 豊澤佳弘 S50 toyosawa@msf.biglobe.ne.jp)

・・・と言うんが、連歌の世界に入って抜けられん豊澤壊殻宗匠の漂流連歌会の説明なんやけど、皆んな、ちょびっとは、分かったかいの？
早い話しが、ちゅうか、要するにやな、連歌ちゅうのは、参加した人（連衆）が、順番に五七五や七七の句を出して行って、その変幻自在ぶりをみんなで楽しむっちゅ、言うたら酒を飲みながらの言葉遊びなんやわ。
それも連衆みんなで一緒になって遊ぶんで、ほんまに、面白いんで～。
今回の連歌の中身の解説は、東京玉翠会のホームページの漂流連歌会のところに壊殻宗匠の大変楽しい且つ高邁なる文学的な解説を掲載予定にしとるんで、是非とも、そっちゃの方も見ていた一。
ほんでから、興味がわいて、ちょっとやろうかいの、という人は、是非とも、連絡していた一。
まずは俳句からやろうかいな、という方は、二句の会に連絡していた一よ。
ほいたら　またの（文責 岡崎洋 S37 okazaki@tokeilaw.com）

第６回興行

歌仙連歌　風青しの巻

平成28年6月26日（日）
於　みな瀬（南青山）　ゴングル（南青山）
句上　洋々（5）芝女（5）壊殻（5）欣女（5）光義（5）らいむ（5）六条（4）紗頼（2）

（初折の表）

発句	みな瀬なる飯や参道風青し	洋々	夏
脇句	麦酒グラスに光る水滴	芝女	夏
第三	鐘遠し異郷に苦きものありて	壊殻	雑
四句	さまよひ歩く中世の街	紗頼	雑
五句	石垣の葉蘭の陰や赤き月	欣女	秋
六句	夜寒の空を天狗翔けゆく	光義	秋

（初折の裏）

初句	居酒屋でボジヨレヌーボー夢うつつ	らいむ	秋
二句	ねえもう一軒と谷根千の坂	六条	雑
三句	髪ほどく指の白さにときめいて	芝女	雑
四句	濃密な刻砂の流るる	洋々	雑
五句	寒梅の香り残れる閨の朝	紗頼	冬
六句	炭をつぎつつあくびのかむろ	壊殻	冬
七句	外に出でよ魑魅（すだま）の遊ぶ冬の月	光義	冬
八句	かごめかごめの正面だあれ	欣女	雑
九句	うつむいてあの子が欲しい新学期	六条	春
十句	彼氏狙いの春のキヤンパス	らいむ	春
十一句	遠き山姿消えゆく花時雨	洋々	春
十二句	放蕩コーギーおうちに帰る	芝女	雑

（名残の表）

初句	哲学を語る娘の得意顔	壊殻	雑
二句	断食道場三泊四日	欣女	雑
三句	海見ゆる木と木の間ハンモツク	光義	夏
四句	ボンドガールは美魔女となりぬ	らいむ	雑
五句	勘違ひデートのあの日姫路城	六条	雑
六句	私じやないわ運命の人は	洋々	雑
七句	瞬殺の言葉の刃氷柱落つ	芝女	冬
八句	新天地へとはばたく明日	壊殻	雑
九句	ハワイ島大の字になる黍畑	欣女	秋
十句	一朶の雲に鳥祭る鷹	光義	秋
十一句	昼の酒少女のやうな月のあり	らいむ	秋
十二句	白馬の湖畔独り佇み	六条	雑

（名残の裏）

初句	横顔に憂ひ含みて夏椿	洋々	夏
二句	ほうたるの宿帯高く締め	芝女	夏
三句	重力波君の鼓動の伝はりぬ	壊殻	雑
四句	夫のある身と妻のある身と	六条	雑
五句	別れたる果てはいずこや花吹雪	光義	春
挙句	春陽の中を潮路超えゆく	らいむ	春

第７回興行

歌仙連歌　鷹の舞の巻

平成29年1月21日（土）
於　SUSHI 権八（銀座二丁目 G-Zone）　Monsoon Café（銀座二丁目 G-Zone）
句上　洋々（5）峻坊（5）芝女（4）壊殻（4）光義（4）らいむ（4）五十六（4）欣女（4）泰花（2）

（初折の表）

発句	冠雪の富士が舞台や鷹の舞	洋々	新年
脇句	初夢かざる茄子紺の暮	芝女	新年
第三	潮騒の珊瑚の浜に寝ころびて	壊殻	雑
四句	觔斗雲のお迎えを待つ	泰花	秋
五句	いちばんの笑顔の写真月明に	光義	秋
六句	伏見の新酒猪口は京焼	らいむ	秋

（初折の裏）

初句	坪庭に萩こぼれ咲く旅の宿	休肝虫（峻坊）	秋
二句	鈴虫の音に君もこゑきく	五十六	秋
三句	コンバンワサビシカツタヨ I've missed you	丘蝶（欣女）	雑
四句	マニラの夜の睦言哀し	洋々	雑
五句	五年目の単身赴任辞令いつ	芝女	雑
六句	顔忘れたり犬も妻子も	壊殻	雑
七句	夏やせの菩薩のみ知る我が心	泰花	夏
八句	還暦すぎて欲望のまま	光義	雑
九句	おぼろ月ポスト現代読み耽る	らいむ	秋
十句	激戦制し蛇穴を出づ	虎ん斑（峻坊）	春
十一句	花を見て死ぬるよろこび衣川	五十六	春
十二句	魂は今モンゴルの地へ	丘蝶	雑

（名残の表）

初句	ハーンの旗冬野を単騎駆け行けり	洋々	冬
二句	ローマ法王ほつと一息	壊殻	雑
三句	湯上りのコーヒー牛乳決めポーズ	五十六	雑
四句	かわいいビキニウインクビーム	三編少将（峻坊）	夏
五句	熱帯魚おぼれる愛が止まらない	丘蝶	夏
六句	鏡の中の髪の乱るる	光義	雑
七句	美女になれテクマクマヤコンシンゴジラ	らいむ	雑
八句	てんやわんやの築地の市場	芝女	雑
九句	ヨツシヤ来た大間の漁師ほくそえむ	壊殻	秋
十句	秋の祭に莫大な寄付	洋々	秋
十一句	うさぎさん月の裏側見たいよね	異挽歌（峻坊）	秋
十二句	竹を伐る音宙に響けり	五十六	秋

（名残の裏）

初句	花伝書をたどる山の端求めゆきて	光義	雑
二句	静御前の白き顔（かんばせ）	丘蝶	雑
三句	いにしへの恋の行方の霞みけり	芝女	春
四句	伊勢に参りて誓ひし契り	らいむ	春
五句	世の尽きて世の始まるや桜咲く	峻坊	春
挙句	伊吹の島に春は来にけり	洋々	春